

NGOサポート募金
「東日本大震災 活動支援まとめて募金」
2011年6月分活動状況報告

2011年 7月21日 (特活)国際協力NGO センター

報告対象時期：2011年6月1日～6月30日

活動団体：31団体

目次

(特活)ICA文化事業協会	3
(社)アジア協会アジア友の会	4
(特活)アジア日本相互交流センターICAN	5
(特活)ADRA Japan	6
(特活)AMDA	7
公益財団法人オイスカ	8
(特活)幼い難民を考える会	9
(特活)オックスファム・ジャパン	10
(特活)グッドネーバース・ジャパン	11
公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン	12
公益財団法人国際開発救援財団	13
(特活)国際ボランティアセンター山形	14
(特活)国境なき子どもたち	15
(特活)シェア＝国際保健協力市民の会	16
(特活)JHP・学校をつくる会	17
(特活)ジェン(JEN)	18
(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会	20
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	21
(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)	22
(特活)地球の友と歩む会	24
(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン	25
(特活)難民支援協会	26
(特活)難民を助ける会	27
(公社)日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)	28
(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)	29
(特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン	30
(特活)パレスチナ子どものキャンペーン	31
(特活)ピースウィンズ・ジャパン	32
(特活)ブリッジ エーシア ジャパン	33
(特活)メドウサン・デュ・モンド ジャポン(世界の医療団)	34
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン	35

団体名	特定非営利活動法人ICA文化事業協会
活動地域	福島県福島市、南相馬市、相馬市、相馬郡新地町
対象者	東日本大震災被災者約3300人+福島市の学校の教室1050室
実施した活動概要	<p>東日本大震災発生より3カ月が経ち、物資は充分とは言えないが行き渡ようになってきた。しかし、福島県、特に南相馬市の給食センターでは、原発の影響で多くの方が避難を余儀なくされ、震災前の倍の人数に対応しなければならず、いまだ食糧が足りていないということがわかった。ICAは、WFPそして企業にもご協力いただき、野菜、果物、ジュースなどを届け、2725名分の給食支援を行った。</p> <p>さらに、食糧支援がなかなか届きにくい相馬市の半壊世帯約550世帯にもミネラルウォーター・食糧品などの支援を行った。</p> <p>また、現在計画的避難区域には指定されていないが、放射線レベルが高く、住民が不安を募らせている福島市の幼稚園・小中学校・養護学校に、企業とのマッチングにより空気清浄機1050台を贈呈した。</p>



「久しぶりに食べるきゅうりはおいしいな」



「教室の空気がきれいになりました」

団体名	社団法人アジア協会アジア友の会
活動地域	宮城県南三陸町歌津地区
対象者	歌津地区 28 カ所の集落
実施した活動概要	<p>生活物資の配布： 日々のニーズが変更していく中、歌津地区の集落、仮設住宅、避難所を巡回しながら、生活物資の配布を実施している。</p> <p>桜通信の発行 南三陸町の地域の生活情報、催し物、イベント、被災者に必要な情報などをまとめ、桜通信という「地域瓦版」を週一回編集発行し、本会がカバーしている地域の人々へ配布を行っている。</p> <p>聞き取り調査 日々のニーズの聞き取り調査。より迅速に適切な物資が配布できるよう、被災者のニーズに常に耳を傾けながら、物資配布をするための聞き取り調査。</p> <p>味噌プロジェクト 米や大豆などの原材料を支援物資として提供し、女性たちが味噌を作る工程までできるよう支援するプロジェクト。地域の人たちは年間 50kg の味噌消費するために、殆どは各家庭の自作をしている。本プロジェクトにて自作できるまでを支援しており、現在、地元の女性たちを活気づけるのに非常に好評である。</p>



配布用の野菜が積まれたトラック



物資を配布しているところ

団体名	アジア日本相互交流センター
活動地域	宮城県および愛知県
対象者	宮城県の被災民・被災した青少年、愛知県の市民・中高校生
実施した活動概要	<p>宮城県東松島市の教育福祉機関への物資の提供、東松島市でのニーズ調査、東松島災害ボランティアセンターと協力したボランティア調整業務、愛知県の学校・団体への活動報告会等を実施した。</p> <p>東松島市の図書館、学童クラブおよび子育て支援センターへ文具・絵本を提供</p> <p>東松島の教育福祉機関におけるニーズ調査を実施</p> <p>東松島災害ボランティアセンターにおいてボランティア調整業務を実施。</p> <p>愛知県の学校・団体・個人に対して活動報告会を5回実施</p>



移動図書館へ絵本を寄贈しているところ



東松島市野蒜小学校の校長先生へ扇風機提供の様子

団体名	特定非営利活動法人 ADRA Japan
活動地域	宮城県亶理郡山元町、亶理町、東松島市
対象者	山元町町役場・社会福祉協議会職員、山元町・亶理町住民
実施した活動概要 (200字程度)	<p>4月から開始した山元町の役場・社協職員を対象にした1日3食の炊き出しを継続している。6月の1ヶ月間で、食堂にて1847食、役場外で働く職員用弁当として201食、合計2048食の食事を提供した。現在も、ADRAスタッフ2~3名、ボランティア6~10名/週を派遣して食事の用意をおこなっている。</p> <p>仮設住宅入居者への生活必需品支援として、山元町では4箇所270世帯、亶理町では3箇所464世帯、東松島市では4箇所550世帯に対して寝具、調理器具、浴室用品等を提供した。</p> <p>今後は、宮城県山元町、亶理町、東松島市での支援活動に加え、福島県の市町において仮設住宅への物資支援、福島県内で教育支援を実施する予定。</p>



山元町職員への炊き出し支援



亶理町仮設住宅支援

団体名	特定非営利活動法人AMDA（アムダ）
活動地域	岩手県上閉伊郡大槌町 宮城県本吉郡南三陸町
対象者	岩手県上閉伊郡大槌町被災者 宮城県本吉郡南三陸町被災者
実施した活動概要 (200字程度)	<p>AMDA では定期的に被災地に調整員を派遣している。6月末にはハエが大量発生し、住民を悩ませていることから、ハエたたき、ハエ取り紙などを寄贈した。またビタミン剤の配布なども行った。</p> <p>大槌町で活動を継続しているAMDA鍼灸師は、巡回治療や往診を行っている。月に約60名程度を巡回治療している。現在、鍼灸を含めた健康支援ができるよう診療室の設置を検討しており、具体的な施設の設営について打ち合わせを続けている。</p> <p>AMDA 東日本大震災国際奨学金 の対象校6校のうち2校で奨学生の選定が終了し、25名の支給を開始した。</p>



巡回鍼灸治療を行うAMDA鍼灸師



ビタミン剤を寄贈するAMDA調整員

団体名	公益財団法人 オイスカ
活動地域	宮城県、茨城県
対象者	子ども、一般
実施した活動概要	<p>・「つみ木」を使った遊び場の実施：宮城県気仙沼市・仙台市・女川町（23日～25日）</p> <p>5月に実施した現地調査が縁で、今回の実施に繋がったが、子ども達の表情は明るく、つみ木が崩れてしまっても、「大丈夫！また作ればいいんだから」とか、「諦めちゃダメ」などとお互いに声を掛け合っている姿が見られ、若い母親を始め、</p> <p>周囲にいた年配の方々からも、和やかな表情での声掛けや対応が見られた。</p> <p>梅雨入り直後ではあったが、3日間とも晴天だったためか、特に避難所周辺では、無数のハエが飛んでいたりと、排水出来ず水溜りになってしまっている海水からの異臭が漂っていたりと、目で見える風景は回復に向かっているようでも、未だ厳しい状況下にある人々を想うと、東北の方々の強さを、改めて強く感じた。</p> <p>・物資支援：夏物（半袖）作業服を中心に男性用を約3,500着、女性用を約2,800着、</p> <p>仙台市内の支援団体を通じて、被災された方々に配布した。</p>



「出来上がった「つみ木」の町」



「つみ木」と「肩もみ」ボランティア

団体名	特定非営利活動法人 幼い難民を考える会
活動地域	福島県、宮城県、埼玉県（調査中）
対象者	被災地、避難所などで避難生活を送る、幼児期の子どもたちと、 保育関係者や母親など
実施した 活動概要	<p>あおぞら保育実施のための、保育セット用遊具・教材製作活動</p> <p>保育セットの教材購入</p> <p>教材・遊具・絵本の募集</p> <p>被災地視察（福島 6/4・6/25・6/27、埼玉 6/15）</p> <p>被災地自治体、避難所関係者、被災保育関係者等との協議</p> <p>保育専門家とのミーティング</p> <p>協力団体とのミーティング</p> <p>避難所・幼稚園等への保育セット送付（福島県「あづま総合運動公園避難所」、「仙林寺」；宮城県「のびる幼稚園」、「ピノッチオ保育園」、「災害子ども支援ネットワークみやぎ事務局」）</p> <p>ファンドレイズのため、企業に対して広報活動</p> <p>支援者・団体での遊具・教材製作セッション</p>



保育セットの長縄跳びを使って思い切り遊ぶ子どもたち



保育セットの大型絵本の読み聞かせに聞き入る子どもたち

団体名	特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン
活動地域	福島県郡山市、いわき市、相馬市(シングルマザーと被災女性の支援) 被災地域各地(配布及び、被災女性ホットライン)
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 被災したシングルマザー 被災した女性 被災した非日本語話者
実施した活動概要 (200字程度)	<ul style="list-style-type: none"> (特活)全国女性シェルターネットを通して、24時間の無料ホットラインにおいて、被災女性からの暴力や生活相談を相談員や弁護士が受けアドバイスをするほか、深刻なケースでは保護のための同行支援を行いました。 (特活)しんぐるまざあず・ふぉーらむを通して、週5日の無料ホットラインにおいて、被災したシングルマザーからの生活相談を受けました。また、福島県内の避難所をまわり、支援物資の配布、カウンセリングを実施しました。 (特活)多言語センターFACILを通して、気仙沼のフィリピン人被災者による、ラジオの番組制作グループ作りを支援しました。自助グループの形成を目指します。 手動充電式のラジオを購入し、(特活)多言語センターFACILとともに、被災地において、主に非日本語話者の方々を中心に配布をしました。



ラジオを主に非日本語話者の方に配布



気仙沼のフィリピン人被災者による、ラジオの番組制作グループ作りを支援しました。自助グループの形成を目指します

団体名	特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン
活動地域	岩手県 釜石市・大槌町
対象者	一般・子供
実施した活動概要	<p>■シャワーブースプロジェクト； 釜石市、大槌町、遠野市に設置した仮設シャワーブースの運営および点検。</p> <p>■心理ケアプロジェクト； “心のケア・プログラム” 平田幼稚園、小川幼稚園、大槌幼稚園保育園、鵜住居保育園にて先生方向けのセッションを実施したほか、保護者向けのリラクゼーションワークショップを平田幼稚園にて開催。 “おおちゃんの愛しの隊員さんを探せ！プロジェクト” 大槌町に住むPTSD（心的外傷後ストレス）を抱えたおおちゃん（5歳・おさなご幼稚園）のための北海道陸上自衛隊によるビデオレター作成の依頼・取り付け。</p> <p>■ゲルプロジェクト； 陸上自衛隊からの協力要請を受け、モンゴル政府から供与されたゲルを移動型遊具施設（本屋おもちゃを備えた子どもが遊べる空間）として安渡幼稚園、緑幼稚園、おさなご幼稚園に設置。</p> <p>■鮭プロジェクト； 大槌町ボランティアセンターに当団体から職員を派遣し、大槌川再生プロジェクトを運営。6月24日～27日の週末にボランティア200人で河川清掃を実施。</p> <p>■物資支援； パナソニック株式会社より寄付された61台のコンピューターとキヤノン株式会社より寄付された10台のプリンターを大槌町と釜石市の幼稚園、保育園に配布・完了。</p>

団体名	公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
活動地域	岩手県山田町、大槌町、宮越、釜石市
対象者	上記活動地域の被災者の皆様（述べ12,054人）
実施した活動概要	<p>当団体が6月に被災地で実施した活動は以下の通りです：</p> <p>半壊家屋の方への支援：地元企業と連携して、政府からの義援金が支払われない半壊家屋に住んでいる被災者の皆様に、地元で生産されたお米（5キロ）や味噌（1パック）の生活必需品を250世帯（720人分）に提供</p> <p>生活必需品購入のクーポンの支給：地元企業とパートナーシップを結び、187の半壊世帯（約600名）に、地元スーパーなどで食料とキッチン用品を購入できるクーポン（各2万円分）を支給。</p> <p>小学校への楽器提供：岩手県大槌町の小学校3校（吉里吉里・大槌・大槌北）に合計20個の吹奏楽器と関連アクセサリー19個を提供。夏のイベントや秋に行われる運動会でも使用される予定。</p> <p>移動式コミュニティ・カフェ運営のサポート：山田町と大槌町にて、モバイル・コミュニティ・カフェ運営のサポートの為に、テント（3つ）、クーラーボックス（2個）、お菓子（10箱）を提供。</p> <p>地域内情報共有のサポート：山田町にて、現地のNGOが運営している被災者向けの地域密着型コミュニティ新聞発行のサポートとして、コンピューター・インク・紙・プリンター等、新聞発行に必要な資材を提供。</p>



吉里吉里（きりきり）小学校にて。“ 学期の運動会でも活用し、先輩からの伝統を引き継ぎたい”、と力強いコメントを頂く。



山田町社会福祉課が運営、当財団がサポートをしているコミュニティ・カフェにて。情報交換をする方、話すことで癒しを感じる方が多いようだった。

団体名	公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR)
活動地域	岩手県：宮古市、田野畑村、洋野町、岩泉町、久慈市
対象者	宮城県三陸沖を震源とする巨大地震（マグニチュード9）及びそれに伴う津波の被災者
実施した活動概要	FIDRは、被災された方々の仮設住宅への入居時期に合わせ、宮古市、田野畑村、洋野町、岩泉町、久慈市の仮設住宅約1,600世帯を対象に、炊飯器、電気ポット、掃除機などの家電製品を提供しました。



仮設住宅に提供した扇風機



提供した掃除機と扇風機

団体名	特定非営利活動法人 国際ボランティアセンター山形 (東北広域震災NGOセンター)
活動地域	物資支援 / 南三陸市、石巻市、女川町、東松島市 キャッシュ・フォー・ワーク / 石巻市、気仙沼市 炊き出し / 石巻市
対象者	物資支援 / 遠隔地・小規模な避難所の方、自宅避難されている方 キャッシュ・フォー・ワーク / 地震・津波によって職を失った石巻市・気仙沼市の方 炊き出し / 石巻市渡波小学校に避難されている方及び周辺住民
実施した活動概要	石巻市と気仙沼市にて「キャッシュ・フォー・ワーク」を実施し、毎日約45名の被災者を雇用しています。雇用者の仕事内容は、津波被害を受けた家屋のガレキ撤去・ヘドロ除去に加え、避難所からリクエストを受けた物資や食材の調達・配達、炊き出しイベントの企画・開催等。また市内在住の6名がコーディネーターとして、作業員および作業を依頼して下さる家主さんの公募・調整、マスコミ対応、ドナー対応、経理等を行っています。雇用者に対し、破傷風予防注射、健康診断、社会保険・雇用保険への加入手続きも行いました。



女性メンバーも活躍しています！



暑さに負けず側溝の泥上げ

団体名	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)
活動地域	岩手県沿岸部
対象者	子ども
実施した活動概要	<p>岩手県沿岸部の市町村で、先月に引続きスクールバスや制服、体操着、スクール水着、給食着など、教育に関わるあらゆる物資寄贈を行った。</p> <p>その他、『友情のライブラリー』プロジェクトで集められたダンボール 24 箱分のメッセージ付きの本を釜石市の栗林(くりばやし)小学校に届け、子どもたちに配布した。</p> <p>6月上旬より現地駐在している調整員 2 名が、より細かな支援ニーズの調査及び活動の調整にあたっている。</p>



大槌町の小学校に届いたスクールバス



本についてのメッセージを読む子どもたち

団体名	特定非営利活動法人シェア = 国際保健協力市民の会
活動地域	宮城県気仙沼市
対象者	高齢者、障害者、要介護者、母子を含む住民全般。保健ニーズがあれば誰でも。
実施した活動概要	<p>気仙沼市において、市の要請を受け県外医療支援チーム、地元の医師や介護事業者等が協力し結成された、『巡回療養支援隊』の健康相談班に参加しています。これまで自宅にて孤立しがちな高齢者や母子等を訪問し、健康相談および診療ニーズの把握、在宅ケア活動の側面支援等を行ってきました。</p> <p>現在、健康相談班では、移住の始まった仮設住宅への訪問を始めており、シェアとしても仮設住宅の住民に対する支援活動を独自にスタートさせようとしています。地元の有志、介護事業者などと協力し、包括的な保健医療支援を実施する準備に入っており、7月下旬にはトレーラーハウスを設置して、仮設住宅支援の拠点とする予定です。</p> <p>シェアは今後も、一人ひとりの声に耳を傾けつつ、地域の保健医療ニーズを汲み取りながら、長期的な保健医療支援活動を行っていきます。</p> <p>(全351文字)</p>



仮設住宅で暮らす高齢者の話に耳を傾けながら、健康状態を聞き取る看護師ボランティア



その日の巡回訪問のスケジュールを確認し合う健康相談班スタッフ

団体名	特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
活動地域	宮城県南三陸町
対象者	南三陸町民
実施した活動概要	<p>1．災害ボランティアセンター運営 今月も社会福祉協議会と共同で災害ボランティアセンターの運営に携わり、全国からのボランティア受付、説明業務や避難所のニーズ調査、マッチング業務を行った。</p> <p>2．ボランティア活動隊派遣 流出した思い出品の修復や展示作業へのボランティア人員派遣 町内の片づけや瓦礫撤去作業などのボランティア人員派遣 協力企業との連携による炊き出しを2日間（2カ所）で実施。</p> <p>3．派遣者数（3月～6月末） 18次隊まで延べ121名（運営要員:延べ38名、活動要員：延べ83名）</p> <p>4．主な寄贈品（6月） 思い出品の修復や展示に必要な備品類(ビニール袋、キッチンペーパー等多数) 今後も、災害ボランティアセンターの業務を継続的に担当しながら、ボランティア作業隊員（実働部隊）の派遣、炊き出しの連携などを通じ、同町の復興に力を注いでいく。</p>



東京駅から出発する第18次隊メンバー



揚物と鳥もつのお弁当を提供する JHP メンバー

団体名	特定非営利活動法人ジェン（JEN）
活動地域	宮城県石巻市
対象者	東日本大震災で被災し、 ・現在も避難所または自宅で避難生活を続けている住民の方々 ・仮設住宅に入居された住民の方々 ・生業復帰を目指している個人事業主の方々
実施した活動概要	<p>1． 瓦礫撤去事業 震災による被害を受け、資機材や資本を失くした瓦礫撤去事業者に対し、資機材を貸与。彼らの生業復帰へのサポートすることで、地域の力を活かし、急務とされている瓦礫撤去の促進を促進する。6月中には、支援対象となる瓦礫撤去事業者の選定を行った。</p> <p>2． 物資配布事業 石巻に次々と建設が進んでいる仮設住宅へ、生活物資の調達および配布を実施した。6月末現在、3,024件への配布を完了した。</p> <p>3． コミュニティ・スペース 被災された方々が将来に渡ってともに支え合える環境を再生するために、集会所、会館、公民館など被災前から地域活動の拠点となっていた空間の再建築や運営をサポートする。6月末現在、市内3か所（中屋敷地区、鹿妻地区、黄金浜地区）で運営中。石巻市を中心に10か所の開設を目指す。</p> <p>4． 中小企業・個人事業主の生業復帰支援 震災による被害を受けた個人事業主に対し、営業再開（再建）または新規事業のサポートを行う。支援の対象となる事業（または事業主）は、公募により選定。6月末現在、公募の仕組みを準備中。</p> <p>5． ボランティア事業 ボランティアセンターとの連携のもと、以下のボランティア募集&調整を実施。</p> <p>➤ 炊き出しボランティア 中屋敷地区、鹿妻地区の2か所で、自宅避難者を対象に炊き出しを実施。6月末現在、通算で21,012食を配布した。</p> <p>➤ 泥だしボランティア 渡波地区での個人宅の泥だし&片付けが一巡し、ニーズが変化。下水の水を通すための側溝にたまった泥の掃除を行った。また、あらたに十三浜地区での瓦礫撤去をスタート。6月末現在、調整したボランティア数は述べ1663名となった。</p> <p>6． その他の短期プログラム</p>

子どものための心のケアワークショップ(人形作成、サッカー教室など)や
ファッション誌による避難所でのメイク&ヘアカットサービス など



ボランティアの方々による側溝掃除



仮設住宅一戸いっこへの物資配布

団体名	特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会
活動地域	福島県いわき市
対象者	いわき市内震災被災者
実施した活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県いわき市勿来地区での災害ボランティアセンター休止以降の復興に向けた取り組みへの調整・協議。 ・ 小浜地区災害ボランティアセンターの運営協力 災害ボランティアセンター運営協力。災害ボランティア受け入れ。被災住民のニーズ調査。緊急物資の配送と配布。被災住宅の後片付け。 ・ いわき市の社会福祉協議会平災害ボランティアセンターの運営協力。 ・ いわき市との調整とNPO間調整。 ・ 一時提供住宅入居者への物資提供（約750世帯配付済み）



いわき市社会福祉協議会でのボランティア受付作業



いわき市沿岸部最北の「久之浜（ひさのはま）」地区

団体名	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
活動地域	宮城県気仙沼市
対象者	一般（特に本吉地区、唐桑地区の避難所の被災者）
実施した活動概要	<p>【気仙沼市での活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市本吉地区と唐桑地区にある避難所計20か所へ巡回をおこない、必要物資の聞き取りや物資配布を行った。 ・ボランティアで参加いただいている企業の方々による「縁日イベント」や子どもたちと手作りした凧揚げ、青空カフェなど、イベントを行った。 ・先月から開始したお茶やコーヒーを振る舞い、心の内を聴かせていただく行茶（ぎょうちゃ）を5か所の避難所で計6回行った。 ・SVA関係者の呼びかけにより落語家による寄席が行われた。6か所の避難所で開催。



大阪から来られた落語家さんによる「お楽しみ落語会」



小泉中学校で行われた縁日イベント

団体名	(財)家族計画国際協力財団(ジョイセフ)
活動地域	岩手県、宮城県、福島県
対象者	妊産婦と女性及び新生児
実施した活動概要	<p>1. 物資配付 下記の支援拠点に対して、救援物資の提供を行った。</p> <p>1) 岩手県 釜石市シープラザ(赤ちゃん用プラスチックエプロン) 岩手県上閉伊郡吉里吉里 堤乳幼児保育園(クールスカーフ)</p> <p>2) 宮城県 仙台市宮城県助産師会(赤ちゃん用プラスチックエプロン)</p> <p>3) 福島県 郡山市もみじ助産院(だっこひも)</p> <p>2. 女性支援パッケージ配布の調整及び被災女性への配布 5月30日~6月1日、6月11~14日に、岩手県釜石市、大槌町、山田町を訪問し、物資支援拠点のもりおか女性センター等の関係者と『女性支援パッケージ』(□)の配布方法についての検討、及び被災女性に配布を開始した。国連人口基金(UNFPA)の委託によりジョイセフが制作する『女性支援パッケージ』には、疲弊しきっている被災地の女性たちのストレスを軽減し健康と安全が保てるよう、物資を用意する。今後、岩手県を中心に約3,000セットを提供する。</p> <p>(□)『女性支援パッケージ』内容：女性用衣料、下着、スキンケアセット、シャンプー・コンディショナー、タオル、ハブラシ、マタニティウェア(妊婦さんのみ)、トートバック、情報パッケージ(被災地の女性たちが健康に安全に過ごすための情報を編集)</p> <p>3. 義援金(ケシヨ(*))申請受付のための準備作業 岩手県、宮城県、福島県の被災産婦に義援金を直接支給するための仕組み作りに取り組んだ。震災後から5月末日までに国内外から寄せられた約4,000万円の義援金に、企業からいただいた支援金の一部を加え、被災産婦一人あたり5万円の義援金の給付を行っていく。</p> <p>*「ケシヨ」とはアフリカで広く使用されているスワヒリ語で「あした」を意味する。</p>



岩手大学、宮古短期大学の学生さん、NPO
参画プランニングいわての皆さんの協力に
より、『女性支援パッケージ』のセット組
み作業を行う。



被災者支援活動の拠点ともなっている釜石
市のお寺で『女性支援パッケージ』を配布。

団体名	地球の友と歩む会
活動地域	宮城県南三陸町
対象者	南三陸町立伊里前小学校、名足小学校PTA
実施した活動概要	<p>両校PTAをとおして野菜の配送</p> <p>内訳：6月23日 玉ねぎ87kg、レタス200ヶ</p> <p>6月25日 キャベツ120ヶ、大根150本、レタス100ヶ、かぶ100ヶ</p>

団体名	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン
活動地域	宮城県、福島県、岩手県
対象者	子どもに接する大人(小学校教員など)、その他一般
実施した活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「被災後の子どものこころのケアの手引き」が各種新聞に掲載され、6月末までに約12,000冊を全国の希望者にお届けしました(希望者に無料でお送りします)。 ・6月6日(月)に杉並区教育委員会からのご紹介により、今なお困難な生活をおくっている南相馬市の子どもたちに、応援メッセージが書かれた「メッセージシート」と文房具を1,500セット届けました。 ・6月25日(土)、仙台市市民活動サポートセンターで、第1回「被災後の子どものこころとからだのケアについてのワークショップ」を開催しました。 ・復興支援の一環で、岩手県大船渡市の災害ボランティアセンターから委託を受け、常駐スタッフ2名と酪農学園大学(北海道)の学生ボランティアと共に、仮設住宅におけるニーズの聞き取り調査や、仮設住宅への備品配布等の活動を行っています。調査で得られた情報はファイルにまとめ、社会福祉協議会などと共有して、今後の活動方針決定に役立てています。



福島県南相馬市の担当者とチャイルド・ファンドスタッフ(左)



仙台市で開催したワークショップの様子

団体名	特定非営利活動法人 難民支援協会
活動地域	岩手県、宮城県
対象者	既存の支援体制から取り残されやすい方（女性、子ども、外国人など）
実施した活動概要	<p>何らかの事情で避難所での生活が困難な方、支援の届きにくい避難所にいる方など、既存の支援体制からもれてしまう可能性の高い方が情報や支援から取り残されないよう、活動を行った。具体的には、避難所や公民館などで弁護士による法律相談会を開催し、紙芝居や個別相談を行った。また助産師など専門家との協働による相談事業、物資配布（生理用品や衛生用品、化粧品などが入った「女性キット」）を実施した。</p> <p>また、被災地に残る外国人（大多数がフィリピン人）への相談事業（法律相談を含む）や、物資配布（子ども向けの物資、女性キット）を引き続き行い、ホームヘルパーの資格取得のための就労支援を新たに開始した。</p> <p>「難民と行くボランティア派遣」も引き続き実施。難民や日本人、留学生などの在日外国人によるボランティアグループを派遣し、約80名のボランティアが被災地での炊き出しや瓦礫撤去を行った。</p>



被災したフィリピン人への就労支援を行う



法律相談会で紙芝居による説明を行う弁護士

団体名	特定非営利活動法人 難民を助ける会
活動地域	宮城県石巻市、気仙沼市、東松島市、女川町、南三陸町、塩釜市、岩手県大槌町、大船渡市、陸前高田市、山田町、福島県相馬市、南相馬市ほか
対象者	被災した障害者、高齢者、在宅避難者など
実施した活動概要	<p>6月に宮城県、岩手県、福島県で、高齢者や障害者、在宅避難者などのべ約250カ所、6千人に支援物資を配付したほか、炊き出しや巡回診療、福祉施設の修繕活動等を実施しました。</p> <p>気温と湿度が上がるにつれ、避難所では衛生環境の悪化が問題になっています。当会が調査した避難所では、支給された布団や毛布、マットレスを、天日干しや洗濯もできずに長期間使用されていたため、汚れがひどかったりダニが発生したりしていました。また、ハエや蚊の大量発生も見られます。避難者の中には喘息を持つ方もおり、こまめに洗濯や掃除ができずハウスダストやダニなど喘息の発作を誘発する環境はとても厳しいものです。そこで健康被害を最小限に食い止めるため、宮城県石巻市と南三陸町の16の避難所に、新しい布団や夏季用タオルケット、布団乾燥機、掃除機、除湿機や掃除用品、防虫剤、殺虫剤を配付し、使用方法の指導をしたほか、避難所の大掃除と寝具の天日干しも行いました。また、冷蔵庫のない避難所には、食中毒を防ぐために冷蔵庫も届けました。</p>



避難所となっている小学校で掃除や布団の配布などをしました。気温や湿度の上昇で、避難所の衛生環境の悪化が心配されています（2011年6月18日、宮城県南三陸町）



待ち焦がれていた扇風機と、サイズの合う衣類が届きました！左は難民を助ける会の馬場路子（2011年6月27日、岩手県山田町の避難所にて）

団体名	公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS)
活動地域	岩手県釜石など 宮城県仙台など
対象者	避難所・仮設住宅・孤立集落の在宅被災者
実施した活動概要	<p>釜石地区では、5月末で避難所などでの巡回診療活動に区切りをつけ、6月からはカリタス釜石ベース(カトリック釜石教会)の「心のケア」チームの活動に協力しています。内容は、釜石地区の避難所での巡回ケア、教会の喫茶スペースでの傾聴活動です。</p> <p>仙台地区では、引き続き仙台JOCSを通じて東北教区被災者支援センターの活動に協力をしています。</p> <p>URL:http://www.jocs.or.jp</p>

団体名	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）
活動地域	福島県南相馬市、宮城県気仙沼市、宮城県岩沼市
対象者	当該地域の住民・被災者
実施した活動概要	<p>■福島県南相馬市での災害ラジオ局の運営支援</p> <p>原発事故の被害を受けている南相馬市で、住民が迅速に情報を得るために開設された災害臨時ラジオ局「南相馬災害FM」を支援。スタッフ1名が駐在し、原稿の作成や取材など番組の運営に協力しました。</p> <p>■気仙沼市・岩沼市災害ボランティアセンターの運営支援</p> <p>スタッフ4名が現地に駐在し、被災者の支援のニーズとボランティア活動を調整する機能を支えました。</p> <p>■気仙沼市鹿折地区の地域支援</p> <p>支援が届きづらい地域で、避難所の生活支援や住民の慰安旅行、漁の再開に向けた支援などを行いました。</p>



市役所の一室から南相馬災害FMを放送



津波で流された漁具を洗う。漁の再開への一歩

団体名	特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
活動地域	岩手県大船渡市、陸前高田市
対象者	家屋の全半壊認定を受けた被災者、津波の被害を受けたコミュニティ
実施した活動概要	<p>6月3日から6日、6月17日から20日の日程で、岩手県大船渡市・陸前高田市でボランティアチーム2チーム（計50名）が活動を行った。</p> <p>被災地では、主にながれきの撤去と汚泥の除去を実施。ボランティア実施場所とその内容は下記の通り。</p> <p>個人宅や個人経営の商業施設：床板や壁を剥がし、床下の汚泥除去、清掃作業を実施。</p> <p>陸前高田市の田畑：ながれきの撤去、汚泥の除去作業を実施（私有地への重機介入が困難なため）。</p> <p>大船渡市内の側溝などの公共施設：道路脇の側溝や公園でのながれき撤去と清掃作業の実施（重機介入が困難なため）。</p>



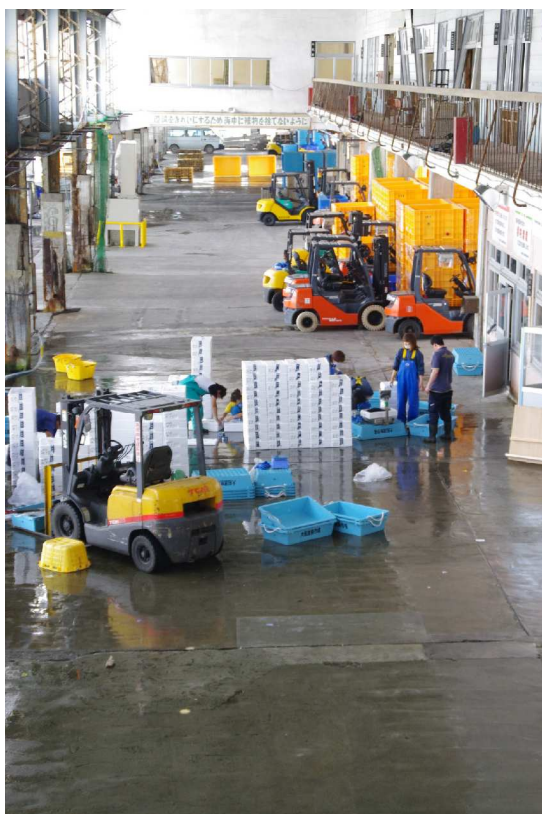
商業施設でのボランティア活動の様子（大船渡市内）



側溝でのボランティア活動の様子（大船渡市内）

団体名	特定非営利活動法人 パレスチナ子どものキャンペーン
活動地域	岩手県大槌町
対象者	子ども、女性、その他被災者家族一般
実施した活動概要	<p>先月に引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各避難所での子ども遊び、写真整理、および炊き出し ・在宅避難者のニーズ調査と物資配布 ・避難所への食材の提供、 ・小学校のスクールバスの送迎添乗 ・避難所でのカフェスペース作り ・さまざまな活動への被災者の雇用 <p>新たに以下の活動を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大槌町の仮設住宅（全2100戸）に入れるため、地元の企業と共同で、被災者を雇用して家具作りを開始（電子レンジ台と下駄箱）

団体名	特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
活動地域	宮城県気仙沼市、同県南三陸町、岩手県陸前高田市、同県大船渡市
対象者	多岐にわたる
実施した活動概要	PWJ は、大船渡市の経済復興のための支援を続けています。このたび、大船渡市魚市場の再開に当たり、大船渡市役所を通じて、事務機器（パソコン、インターネット関連機器、コピー機など）を提供し、職員の執務環境を整えました。さらに、フォークリフトのリース料を負担するほか、鮮度保持タンク、はかりなど、市場の運営に必要な備品を提供します。7月中旬までの納品完了を目指しており、魚市場のさらなる活性化が期待されています。



大船渡市の魚市場支援



大船渡市の魚市場支援

団体名	特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン
活動地域	岩手県大船渡市・陸前高田市
対象者	岩手県大船渡市・陸前高田市の被災者の方々
実施した活動概要	<p>岩手県大船渡市のレストランのシェフを中心とする被災者がボランティアで立ち上げた「3・11三陸気仙復興委員会（通称さんさんの会）」と協力して、大船渡市の避難所や仮設住宅にいる被災者の方々に、栄養バランスを考慮した様々な惣菜を届ける支援を行いました。</p> <p>また、盛岡市に拠点を置く被災地支援チーム「SAVE IWATE」と連携して、陸前高田市のドライビング・スクールの厨房を利用して肉、魚、野菜などを使ったおかずを調理し、避難所に配達する支援も実施しました。</p>



お弁当箱に色とりどりのおかずを詰める
(大船渡)



避難所への配達（陸前高田・まごころキッチン）

団体名	特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド・ジャポン（世界の医療団）
活動地域	岩手県大槌町
対象者	「こころのケア」を必要としている大槌町の皆様
実施した活動概要	精神科医・看護師を中心に、臨床心理士、精神保健福祉士、運動療法専門家などからなる医療チームを派遣し、岩手県精神保健福祉センターからの依頼のもと、被災者に対する「こころのケア」を実施しています。避難所や個人宅を訪問し、不眠や不安などの症状を訴える方々に対し、診療、処方、カウンセリング、傾聴や、体を使った心のケア（運動療法）を行い、被災者の方々のストレス軽減や、不安の解消に努めています。



避難所を巡回する医療スタッフ



避難所で運動療法を行うスタッフ

団体名	特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
活動地域	宮城県登米市、南三陸町、気仙沼市 岩手県大槌町、山田町、宮古市、田野畑村、野田村、久慈市、二戸市、岩泉町、洋野町、矢巾町、一関市（事務所）
対象者	上記地域住人延べ約91,650人
実施した活動概要	<p>5月からの継続</p> <p>チャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)「ぜんいんしゅうごう！」で子どもたちの心のケア</p> <p>仮設住宅への生活物資配布</p> <p>スクールバス・プレハブ校舎支援</p> <p>6月からの新規事業</p> <p>□ おかず給食支援</p> <p>給食センターが流失してしまい、簡易給食を続けていた南三陸町の小中学生（約1,055名、教員数約50名）に対して、おかず給食の提供を開始しました。長く避難所生活を続けてきた子どもたちの栄養状態の改善に貢献し、大変喜ばれています。</p> <p>□ 仮設調理場（コミュニティ・キッチン）支援</p> <p>震災によって壊滅的な被害を受けた南三陸町では、今も多くの方が避難所生活を送っています。台風や梅雨が始まる中、南三陸町内4つの避難所（入谷小学校、歌津中学校、志津川中学校、志津川自然の家）にコミュニティ・キッチン（食事の用意ができる調理施設）を設置し、上記4か所に志津川高校を加えた5か所に調理器具の支援を行いました。（合計受益者数約560名）南三陸町が雇用した被災者の方々が1日2回調理し、それぞれの避難所で配食しています。衛生的で安心して調理ができるようになり、子どもたちの食事環境も改善しています。</p> <p>□ 副教材支援</p> <p>宮城県南三陸町、気仙沼市、登米市、栗原市、岩手県大槌町、田野畑村、野田村の小中学校に、制服、体操着や学校備品の支援を実施しました。（受益者約3,865名）</p> <p>□ 仮設住宅への衣料品支援</p> <p>仮設住宅に入居される方々に対し、衣料品（肌着、靴下、ジャージ上下）の支援を開始しました。（受益者約1,528名）</p>



おかず給食をうれしそうに食べる子どもたち

